

## 編集後記

2016年は、次期学習指導要領改訂に向けて、中央教育審議会の議論のとりまとめが成された年となりました。いわゆる「アクティブ・ラーニング」といった、子どもたちの主体性を重視する教育がますます重要とされるようになっていくなか、真に「学ぶ」ということを保証するためにも、学ぶ、学べる、学ぼうとする「環境」を子どもたちに提供することが、さらに重要になってきています。今年はそのような、子どもたちをとりまく環境をつくり、子どもたちが学ぶ「場」とはどのようなものなのか、といったことに焦点をあてて、「主体的学びの場」を特集のテーマとしました。

「環境」や「場」という言葉は、様々な分野で、様々に用いられる言葉です。教育という枠の中で捉えても、空間、人間関係、教具・教材、広さ、距離、色、配置など、モノであったりヒトであったり、カンケイであったりします。本誌にご寄稿頂いた先生方の様々な視点を感じながら、子どもたちにとって、「良い環境」を考える難しさを改めて考えた1年となりました。

最後になりますが、本所報の発行に際し、様々な方からご協力を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。(峯村)

### 平成28年度 教育研究所研究員

所長兼研究部門長	原 克彦	(社会学部メディア表現学科教授)
FD部門長	鎧屋 一	(外国語学部中国語学科教授)
IR部門長	沢崎 達夫	(人間学部心理カウンセリング学科教授)
主任研究員	林 美奈子	(看護学部看護学科教授)
研究員	今野 裕之	(人間学部心理カウンセリング学科教授)
研究員	和田上貴昭	(人間学部子ども学科准教授)
研究員	藤谷 哲	(人間学部児童教育学科准教授)
研究員	溝尻 真也	(社会学部メディア表現学科専任講師)
研究員	前田ひとみ	(外国語学科英米語学科准教授)
研究員	矢野 秀典	(保健医療学部理学療法学科教授)
研究員	奈良 雅之	(保健医療学部理学療法学科教授)
研究員	毛束 忠由	(保健医療学部作業療法学科教授)
研究員	立石 雅子	(保健医療学部言語聴覚学科教授)
研究員	峯村 恒平	(教育研究所助手)

(執筆者の所属は平成29年2月末現在のものです)